

令和6年度 第2回 教育研究評議会 要録

日時	令和6年5月15日(水) 13時00分～15時16分
場所	遠隔会議：第一会議室、各事務室等
出席者	榊理事長、高田学長、榎本理事、中山副学長、柳沢副学長、久保副学長、山内副学長、吉田文学部長、酒井理学部長、鈴木則子生活環境学部長、藤田工学部長、遊佐人間文化総合科学研究科長、鈴木広光評議員、高岡評議員、鍵和田評議員、篠田評議員、岡本評議員、松本評議員、黒子評議員、衣川評議員、宮林評議員
列席者	三野監事、大久保監事、三谷監事、向総務課長、寺本企画課長、川村人事課長、幸田財務課長、奥施設課長、岡田情報課長/学術情報課長、荒堀国際課長、植田研究協力課長、米谷学務課長、角田学生生活課長、津寄入試課長、岩阪監査室長
議長	高田学長

議事に先立ち、高田学長から、14時30分までと設定されている本評議会の開催時間について、合同情報共有会の開催時を除き、今後は15時00分までと変更したいとの発言があった。

I 審議事項

1. 科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」の申請について

久保副学長から資料1により説明があり、審議の結果、本評議会での意見を踏まえて一部内容を修正の上、申請することを承認した。

榎本理事から、昨年度の申請に対して指摘された内容を踏まえ、より具体的な案を記載する必要があるとの意見があった。

酒井理学部長から、人事計画にかかる部分は現場との調整を大事にしていきたいこと、また、大学の中で将来の女性研究者候補を育てていくことが大事との意見があった。

衣川評議員から、自然科学系に目標値を設定することに反対であり、学問分野によっては女性比率の少ない母集団を対象にした人事を行った場合、教育研究の質が低下し、中期計画の評価指標としているScopus論文数1000報の達成に影響しかねず、学系別にせず全学大ぐりでの目標にした方が良い、また、本学としては博士後期課程での研究者育成に注力することがまずは重要なのではないかと、との意見があった。

久保副学長から、女性が働き易い、働き続けることができる教育研究環境を作る施策が大切との意見があった。

鈴木則子生活環境学部長から、20年前は文学部でさえ女性教授が少なかったが、今は文系では増えており、その実績があるので、理系でも同様にできることをアピールし、女性が働けるロールモデルを見せることが大事との意見があった。

榊理事長から、女性研究者の増員を目指すにあたり適切な候補者が同定されているかとの質問があり、同時に視察経験のある他機関の例から、学位取得時の専門分野から他の領域へ研究活動を拡張できるルートを開くような工夫を大学としても考えてもらいたいとの意見があった。

柳沢副学長から、昨年度の申請では、他大学にも波及するような施策を求められていたため、そのことも踏まえて、波及できるような施策であることを記載すると良いとの意見があった。

高田学長から、これまでの意見を踏まえ、理学系、工学系をあわせて目標設定をした上で申請すること、また、各部局の教育研究の方針があるなかで、女性研究者の採用のみ優先することを求めるものではないが、教育研究の質を担保した上で、できる限りの方策を考え努力することが大切である、との意見があった。

2. 科研費等の採択支援について

久保副学長から資料2-1～2-3により説明があり、審議の結果、原案のとおり承認し、科研費セミナー及び申請書添削を委託業者に依頼する件についても進めることとした。

3. 三つのポリシーの改定について

柳沢副学長から説明があり、審議の結果、資料3に示された原案のとおり承認した。

4. 「オープンアクセス加速化事業」の申請について

久保副学長から資料4-1～4-2により、既に申請した「オープンアクセス加速化事業」について説明があり、審議の結果、これを承認した。

5. 諸規程等の制定等について

(1) 奈良女子大学スチューデント・アシスタント実施要項の一部改正について

榎本理事から説明があり、審議の結果、資料5に示された原案のとおり承認した。

鍵和田評議員及び松本評議員から、TAやSAについては、大学外での人件費の高騰により、大学内での人員確保のためにも、今後、更に増額を検討して欲しい旨、意見があった。

6. その他

特になし

II 報告事項

1. 理事長選考・監察会議委員の被投票者の整理について

高田学長から、資料1により報告があった。

2. 令和5年度 学生満足度・到達度調査結果について

中山副学長から、資料2により報告があった。

3. 卒業・修了後5年目における学修成果に関する調査結果について

中山副学長から、資料3により報告があった。

4. 卒業後30年目における振り返り調査結果について

中山副学長から、資料4-1～4-3により報告があった。

5. 卒業生・修了生の就職先への学習成果に関する調査について

中山副学長から、資料5により報告があった。

6. 学内組織見直し検討状況について

中山副学長から、資料6-1～6-2により説明があり、次回の評議会で原案を出す旨、報告があった。

7. 外国旅費における宿泊料の特例について

高田学長から、資料7のとおりとの報告があった。

8. 組織・設備要求について

榎本副学長から、資料8により報告があった。

9. 施設活用状況点検調査専門部会について

高田学長から、資料9により報告があった。

10. 国際戦略センターの活動について

高田学長から、資料10のとおりとの報告があった。

- 1 1. 外部資金（受託研究・共同研究・寄附金）の受入状況について
久保副学長から、資料 11-1～11-3 により報告があった。
- 1 2. J S T 「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の採択について
山内副学長から、資料 12 により報告があり、本プログラム実施の際における学内関係者への協力依頼があった。
- 1 3. 工学部 企業連携情報交換会及び懇親会への出席について
久保副学長から、資料 13 により報告があった。
- 1 4. 理事長の業務執行状況の確認等について
榎本副学長から、資料 14-1～14-2 により報告があった。
- 1 5. その他
 - ・教員になった大学院生の奨学金の返還免除について
米谷学務課長及び角田学生生活課長から、資料 15 により報告があった。
柳沢副学長からは、今年度中に本学も対応できるように準備したい旨、説明があった。
 - ・学長主催 学内研究交流・懇談会について
高田学長から、資料 16 により報告があった。

最後に、前回、前々回の会議記録について確認、了承の後、今年度以降の会議記録については、全ての発言を記載するのではなく、重要なことに絞って記載することを基本とすること、記録には資料の詳細な説明を記載しないため、学内限定で職員が資料を閲覧できるようにすることを了承した。

次回、教育研究評議会を令和 6 年 6 月 19 日（水）13 時 00 分から開催することとして散会